

科目名称：	子どもの保健	
担当者名：	奥村 澄	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
<p>子どもの身体的生理的特徴・心の健康・疾病について基本的事項を中心に理解を深め、保育の対象の理解に役立てる。子どもの健康を守り育てるための必要な実践的理論・知識を習得する。</p> <p>子どもを取り巻く環境の変化を踏まえながら子どもの身体的・生理的発育・発達を把握し、疾病・事故の予防に必要な基礎的知識や課題を理解する。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。</p> <p>2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。</p> <p>3. 子どもの心身の健康状態とその把握方法について理解する。</p> <p>4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種の連携・協働の下での適切な対応について理解する。</p>		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP (2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	○
DP (3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP (4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP (1)					0
幼児教育DP (2)	90		10		100
幼児教育DP (3)					0
幼児教育DP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 看護師	《経験年数1》 5年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 子どもの健康と保健の意義 健康の概念と健康指標	子どもを取り巻く健康問題を調べておく 子どもの出生・死亡統計をまとめる	60分
第2回 子どもの健康に関する現状と課題 地域における保健活動と虐待防止	母子保健政策の実際を調べておく	60分
第3回 子どもの身体発育と生理機能の発達	発育のめやすを課題プリントに整理する	60分
第4回 子どもの身体発育と生理機能の発達	前回の授業をふり返り、身体発育のめやすを課題プリントに整理する	60分
第5回 子どもの身体発育と生理機能の発達	前回の授業をふり返り、身体発育についてノートに整理する	60分
第6回 子どもの身体発育と生理機能の発達	生理機能の発達のめやすを課題プリントに整理する	60分
第7回 子どもの身体発育と生理機能の発達	前回の授業をふり返り、生理機能の発達についてノートに整理する	60分
第8回 子どもの健康状態の把握	感染症を調べ課題プリントにまとめる。	60分
第9回 子どもの疾病の予防と適切な対応 感染症・予防接種	その他の感染症を調べ課題プリントにまとめる。	60分
第10回 子どもの疾病の予防と適切な対応 アレルギー疾患	子どものアレルギー疾患の特徴をまとめる。	60分
第11回 子どもの疾病の予防と適切な対応 呼吸器・循環器疾患	呼吸器・循環器疾患の特徴と子ども生活への影響をまとめる。	60分
第12回 子どもの疾病の予防と適切な対応 消化器・内分泌疾患	消化器・内分泌疾患の特徴と子ども生活への影響をまとめる。	60分
第13回 子どもの疾病の予防と適切な対応 脳神経・運動器疾患	脳神経・運動器疾患の特徴と子ども生活への影響をまとめる。	60分
第14回 子どもの疾病の予防と適切な対応 心の病気	こころの発達の内容と合わせてまとめる	60分
第15回 子どもの疾病の予防と適切な対応 「ママへの回答」(グループワーク)	提示された課題についてグループワークの準備をしておく。	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの自己ノートをまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、90%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。

課題提出 10%

受講態度(授業への参加度)も考慮する。

課題に対するフィードバック

1. 授業内プリントは評価し返却する。
2. 定期試験は、希望者には事務局を通して返却する。

教科書・参考書

子どもの保健～健康と安全～ 大澤真木子著 日本医事出版社

参考資料:「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月 厚生労働省)

「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月 厚生労働省)

「教育・保健施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省)